

## 熱中症による月別の労働者死傷病報告数（平成28、29年）（人）

	5月以前	6月	7月	7月末までの累積数
平成29年 ※同年7月末時点 の速報値	22	11	53	86

平成28年 ※同年7月末時点 の速報値	9	17	37	63	8月	9月	10月以降
平成28年 ※確定値	12	26	162	200	219	39	4

- 平成29年においても同様に報告数が確定すると仮定すると、7月末までの累積確定数は200人以上に上ると推定される。
- 平成28年8月において、200人を超える被災者が発生したことから、本年8月以降も職場における熱中症予防対策の更なる徹底が必要である。
  - ※ 「5月以前」は1月から5月まで、「10月以降」は10月から12月までの合計。
  - ※ いずれも休業4日以上労働災害に係る労働者死傷病報告。

## （参考）

## 平成28年の職場における熱中症による死傷災害発生概要

平成28年の職場における熱中症による死亡者及び休業4日以上業務上疾病者の数は462人と依然として高止まり状態にある。また、死亡者数は12人と、平成27年よりも17人減少した。そのうち、建設業において死亡者数は7人であり、平成27年度と同様に高い割合を示している。

平成28年に熱中症により死傷した462人のうち、271人が全国的に気温の高かった7月21日から8月末に被災している。また、死亡した12人のうち、2人が7月に、6人が8月に被災している。

死亡した12人に係る災害の発生状況等をみると、WBGT値（暑さ指数）の測定は12人の災害発生場所においてなされていなかった。また、熱への順化期間（熱に慣れ、当該環境に適応する期間）の設定は9人においてなされていなかった。さらに、事業者による水分及び塩分の準備は8人、健康診断の実施は5人においてなされていなかった。